

英語専門科目「異文化理解」の実践報告

～持続可能な開発教育を目指して～



埼玉県立和光国際高等学校 菊池 敦

はじめに

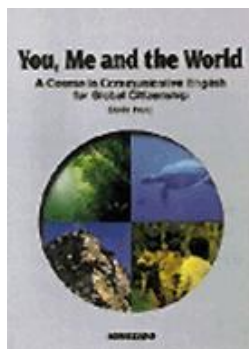
埼玉県立和光国際高等学校は、「自主的精神に充ちた心身ともに健康で、国際化社会で活躍できる個性豊かな人間育成」を目標に、昭和62年に全国の公立高校として始めて「国際」という名称を校名に採用し開設された今年23年目を迎える学校である。普通科（各学年4クラス）・外国語科（同・2クラス）・情報処理科（同・2クラス）の3学科が併設されており、外国語教育・国際理解教育・情報教育を推進している。

外国語科は、埼玉県内初の外国語科として開設され、開設当初より多くの研究開発指定を受けてきた。近年では平成16年度から18年度までの3年間、文部科学省より「スーパー・イングリッシュ・ハイスクール(SELHi)」の指定を受け、「Learner Autonomy を促し、確かなコミュニケーション能力の育成」という研究課題に取り組んだ。

今回、実践報告に取り上げる科目「異文化理解」は、必修英語専門科目として現行の学習指導要領による教育課程改訂時より外国語科2年生対象に開講している科目である。改訂当初は、旧教育課程で開講していた必修英語専門科目「外国事情」を受け継ぎ、主として「文化の相違」に視点が置かれていた。しかしながら、3年次に開講している必修英語専門科目「時事英語」との継続性や、ディベートや論文作成に取り組んでいる「英語表現」を支える内容として、地球規模の諸問題”Global Issues”を取り扱う機運が校内で高まってきた。また本校が新たに「国際社会でリーダーとして活躍できる国際人の育成」というミッションを掲げ、生徒に国際社会の一員、すなわち Global Citizen としての知識と自覚を深めることを目標に「異文化理解」を実践することとなった。Global Issues を広範囲に扱い、かつ読み物中心ではなくアクティビティーベースで授業を展開できる教材を選び、担当者が替わっても継続可能な内容・指導方法で授業を進めている。使用しているテキストは以下である。

David Peaty. 1999. 『You, Me and the World』 東京 金星堂

ここでは、「異文化理解」の実践について、年間の大まかな指導とねらいをいくつかの実践例と併せて紹介していく。



I 年間指導計画

※年度当初、生徒に提示しているシラバスより

(1) 授業内容

科目・単位数	異文化理解 3単位 (総合的な学習の時間 1 時間を含む)	教科書 副教材	David Peaty. 1999. 『You, Me and the World』 金星堂 各 Unit に関するハンドアウト等
学年・学科・コース	2年 外国語科	講座展開	クラスを2分割しての少人数授業 (各20名)

目標	1 Global Issues に対する基本的な知識を身につけ、視点を養う。 2 社会事象に関する英語の語彙を増やす。 3 異文化間コミュニケーションに関する基本的な知識・スキルを培う。
内容	・週2時間は*注1 JTE による単独授業、残る1時間は*注2 ALT とのチーム・ティーチング。 ・前者では、リーディング & リスニング 活動の他、Research, Discussion, Role Plays, Presentation といった活動を通じて Global Issues、特に人権問題に関する理解を深める。 ・後者では、環境問題に関する Global Issues について、ALT と意見を交わしたり、身の回りで出来る解決策を考え、英語で発表することを中心に授業を進める。
学習	・JTE 単独授業(Solo)では基本的にはテキストに沿った学習が中心。各トピックに関する知識を深めるためにも、授業中のグループワークには積極的に参加する。適宜、課題を課す。 ・チーム・ティーチング(T.T.)では毎時間のトピックに関し、ALT を交えて意見交換を行う場面が多いので、積極的に話し合いに参加することが望まれる。 ・国際的な社会事象に関するインプットを増やすために、年間を通じてスクラップ・ブック(新聞記事の切り抜き) 作りを行う。
評価	・定期考査(知識・語彙を問う問題と意見を書く問題を含む) ・発表活動等のグループワーク ・提出物(課題やスクラップ・ブック) ・授業への参加度

*注1 JTE 日本人英語教師

*注2 ALT Assistant Language Teacher 外国語指導助手

今年度は米国出身の2名がこの科目を担当している

(2) 授業計画

本校は2学期制を採用しており、4月から9月30日までが前期、10月1日以降が後期となっている。今年度は年間で87時間の授業を予定しており、以下のような計画で授業を進めている。

	期間（予定時数）	講座	学 習 内 容
前 期	4月から 5月中間考査まで（15）	Solo	UNIT 1 Introduction to Global Issues UNIT 7 Developing Countries
		T.T.	UNIT 2 Waste and Recycling
	5月から 9月末まで（28）	Solo	UNIT 8 Human Rights
		T.T.	UNIT 2 Waste and Recycling UNIT 3 Endangered Species UNIT 4 Rainforests
後 期	10月から 12月中間考査まで（21）	Solo	UNIT 10 Peace and Conflict UNIT 12 US and Them
		T.T.	UNIT 5 Global Warming UNIT 6 Energy
	12月から 3月学年末考査まで（23）	Solo	UNIT 13 Refugees UNIT 14 The United Nations
		T.T.	UNIT 9 Tourism

II 各 UNIT のねらいと生徒の活動

以下に各 UNIT のねらいと生徒の活動についてまとめた。

UNIT 1 Introduction to Global Issues（地球規模の問題への導入）

①授業のねらい

1. 世界にはおよそ200の国と地域があり、様々な問題を抱えていることを理解する。
2. 世界では自分たちと同世代、またはそれ以下の多くの子どもたちが学ぶことさえままならない現状にあることを理解する。
3. 地球規模の諸問題に対し、様々な国際的な機関や人が問題解決に努力していることを学ぶ。
4. 地球規模の諸問題を学ぶ上で、日々新聞に目を通し、自らの意見を持つことの大切さに気づく。

②生徒の活動

ねらい1、に対し

財団法人国際協力推進協会（APIC）より提供を受けたトランプ2種（アジア諸国、ヨーロッパ諸国の基本データが英語で記載されている）とそれぞれの地域の白地図を用意し、4人のグループで順番にカードをめくり、カードに書かれた国について誰かが何かしら知っていることがあれば、白地図に国名と知っている内容を書き記す。2つの地域それぞれ20分程度取り組む。

ねらい2、に対し

NHK・BS放送「僕たちも学びたい(Stolen Childhoods)～貧困と闘う子ども労働者たち」(ガレフィルムズ 2004年アメリカ)を視聴。貧困や児童労働を多く抱える発展途上国ばかりでなく、超大国アメリカにおいても貧困のため学ぶことのできない子どもたちが大勢いることを知る。

ねらい3、に対し

テキストを用い、これからのUNITで更に学習していく地球規模の諸問題や、国際機関、Peacemakerなどの概略をつかむ。

ねらい4、に対し

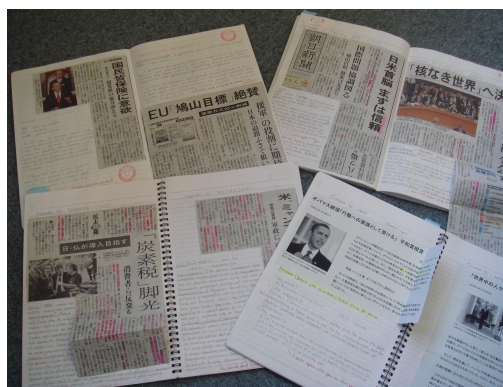
テキストにある英字新聞のヘッドラインと記事を読み、自分の意見を持つ第一歩として「いい」出来事か「悪い」出来事か判断する練習をする。

また、併せて年間を通じた*注3スクラップブックの作成を開始する。

*注3 スクラップブック

生徒は毎週の課題として、2つの新聞記事（日本の新聞・英字新聞を問わず）を切り抜き、A4サイズのノートに貼った上で記事の中のキーワードで未知の語を最低2つ辞書で調べ記載し、要約と記事に関する意見を英語で記入することになっている。2つの記事のうち、1つは発展途上国に関する記事、もう一つは世界規模の大きな出来事を取り上げる。長期休業中も含め、考查期間中等を除くおよそ30週、60の記事を取り上げることになる。今年度も10月時点ですでに38の記事について全員取り組んでいる。

《スクラップブック作品例》



UNIT 2 Waste and Recycling (ゴミとリサイクル)

①授業のねらい

1. 現在のゴミ事情について、その種類と処理方法について再確認する。
2. ゴミ処理を巡る様々な問題点を理解する。
3. 諸外国のゴミ問題解決法や、リサイクルの現状を参考に、身近にできるゴミを減らす方法やリサイクルについて考え、発表する。

②生徒の活動

ねらい 1、2 に対し

テキストの Reading Passage を読み、普段何気なくゴミ箱へ捨てているゴミがどのように処理されているか、ゴミ処理に伴う問題点と併せて学ぶ。

ねらい 3、に対し

以下のハンドアウトを用い、プラスチックバッグがもたらす問題に触れ、諸外国で実施している解決策を学ぶ。その上で4人のグループで、学校でゴミの分別とリサイクルを啓蒙するポスターを作成し発表する。

《校内に掲示した生徒の作品》



《授業で使したハンドアウト》



Although we may be overwhelmed by the environmental problems that are happening all the time, there is a simple way each person can make a difference. It's not too hard- It actually involves shopping!



PLASTIC SHOPPING BAGS AND THE ENVIRONMENT

- 1. Plastic shopping bags kill large numbers of wildlife each year.**
 - **It's very dangerous when plastic bags pollute marine environments.**
 - **Birds, whales, seals and turtles may eat the bags then die.**



Once let loose into the environment, plastic bags can cause considerable harm, blocking drains and killing wildlife that mistake the bag for food.



Operation to remove plastic from gut of a green turtle.



Green turtle gut contents including blue plastic bag and red balloon.



Freedom for one rehabilitated turtle - how long will it survive?

2. They are not biodegradable 分解できない.
They do not decompose easily, so they will last **20-1000** years.

3. Plastic bags also block drains 排水溝 and waterways 水路.

- In fact, plastic bags in drains were a major cause of the severe flood 洪水 in Bangladesh in 1988 and 1998. Bangladesh **banned** plastic bags in 2002.
- Also, They are expensive to **clean up**!



SOLUTIONS!

To protect the environment, several countries are discouraging the use of plastic bags.

Reusable bags

In South Africa, **about 8 billion plastic bags are used per year. The government has required that thicker, heavier plastic bags be made. These bags are suitable for reuse, but more expensive, so stores may give away fewer bags.**

Tax

Other countries such as **Singapore, Taiwan and Ireland** are using a tax to discouraging the use of plastic bags. In Ireland, about 1.2 million plastic bags were used in Ireland per year. Now, customers must **pay a 15 Euro cent (¥25) tax for each plastic bag.** This has helped reduce the number of plastic shopping bags used by **90%**. The money raised is used to protect the environment.



Reduce, Reuse, Recycle, Refuse!



RECYCLE! What can we make from recycled plastic? List some ways here: From recycled plastic, we can get drink bottles, tables, benches, bicycle racks, cameras, backpacks, carpeting, shoes, and clothes. However, it's a little inconvenient because of processing and cost.

REUSE! There are many ways to reuse plastic bags, but they may still end up in a landfill or in the environment.

Refugees from Ethiopia help keep the environment clean by using their weaving skills in a most unique way - creating useful household items, like these baskets, from used plastic bags

Students list ways to reuse bags.

The best method is to REDUCE or STOP using plastic bags!

REDUCE! It is estimated that it takes the average Australian family four shopping trips to accumulate 60 plastic shopping bags. If each Australian family used one less plastic shopping bag each week, Australians would save 253 million plastic bags a year.

REFUSE! Stop using them. choose an *Alternative*(代替品)!

- **Cardboard box**-Some stores save cardboard boxes for customers to use.
- **Paper bags**-biodegradable!
- **Eco bags**- Cheap and available in most stores. These bags can be used again and again. They are stronger and much easier to carry.
- **Biodegradable bags**- Supermarkets in Australia introduced biodegradable bags made from tapioca starch in 2003. These bags look and feel like plastic bags but decompose in three months.

So next time you go shopping, say no to plastic bags! It's easy!

UNIT 3 Endangered Spices (絶滅危惧種)

①授業のねらい

1. 日本を含む世界中で多くの動植物が絶滅の危機に瀕していることを知る。
2. その主な原因が、人間の活動や気候変動であることを学ぶ。
3. 絶滅危惧種保護の取組みについて学び、解決方法を探る。

②生徒の活動

ねらい 1、2、3、に対し

導入として、過去に絶滅した恐竜やニホンオオカミ、タスマニアンタイガーなどの写真を見て、絶滅の理由が気候変動から主として人間の活動によるものになってきたことに気づく。

テキストで例示されている 6 種の絶滅危惧種 (クロサイ・コンドル・揚子江カワイルカ・ゴリラ・コスミレコンゴウインコ・ジャイアントパンダ) について、以下の点を学ぶ。

- ・ 生息地・生息数・生息数減少の原因・種の保全の取組み

うち、揚子江カワイルカについては絶滅が宣言された記事(2006.12.14)を読み、こうしている間にも多くの動植物が実際絶滅していることを学ぶ

《授業で使ったハンドアウト》 <http://www.ens-newswire.com/>



China's Yangtze River Dolphin Declared Extinct

WUHAN, China, December 14, 2006 (ENS) – The Yangtze river dolphin, or baiji, is functionally extinct, scientists from six nations said Wednesday after failing to find a single one of the rare animals after searching the river for six weeks.

The scientists blame destruction of dolphin habitat, illegal fishing and collisions with ships, dam building and environmental degradation for the extinction of this species once called the goddess of the Yangtze.

The 20 million year old river dolphin was one of the world's oldest species.

"It is possible we may have missed one or two animals," said August Pfluger, head of the baiji.org Foundation and co-organizer of the expedition. Regardless, these animals would have no chance of survival in the river."

UNIT 4 Rainforests (熱帯雨林)

①授業のねらい

1. 熱帯雨林が地球にもたらす利益を学ぶ。
2. 熱帯雨林が減少している原因を学ぶ。
3. 熱帯雨林保護に関する5つの提言について、効果的か否か、自らの意見を理由を含めて述べる。

②生徒の活動

ねらい1、2、に対し

ペアでそれぞれがテキストの2つの Reading Passage (ブラジル・アマゾン/マレーシア・サラワク)のうち、1つを読み、相手にその地で起こっていることやその原因、保護政策について伝える。その上で、熱帯雨林がもたらす利益と破壊の原因をまとめる。

ねらい3、に対し

熱帯雨林保護に関する5つの提言について、各自それぞれ効果的か否か判断し、その理由をまとめ発表する。肯定側、否定側に別れ、簡単なディベートを行う。

(提言の例)

- The Japanese government should ban all imports of wood taken from tropical rainforests. 「日本政府は熱帯雨林から切り出された全ての木材の輸入を禁止すべきである。」
- Ecotourism should be promoted. If lots of tourists go to see the rainforests and spend a lot of money in the community for hotels, food, and transport, local people will try to protect their forests. 「エコツーリズムを促進すべきである。多くの観光客がその地のホテルや食べ物、交通にたくさんのお金を費やせば、地元の人たちは森林を保護しようとするであろう。」

UNIT 5 Global Warming (地球温暖化)

①授業のねらい

1. 地球温暖化のメカニズムを知る。
2. 地球温暖化をもたらす主な要因と、地球に対する悪影響について学ぶ。
3. 身近なところで地球温暖化を防止する方法を考える。
4. 校内で可能な取組みを全校に提唱する。

②生徒の活動

ねらい1、に対し

Davis Guggenheim 監督『不都合な真実 An Inconvenient Truth』(2006アメリカ)の地球温暖化のメカニズムを視聴する。その後、テキスト付属のアクティビティシートより地球温暖化の説明文を読み、要約し発表する。

ねらい 2、に対し

地球温暖化をもたらす4つの大きな要因（3種の温室効果ガス：CO₂、メタン、亜酸化窒素及び森林破壊）と排出源、またそれらがもたらす悪影響に関するテキスト付属のアクティビティーシートを読み、要約し発表する。

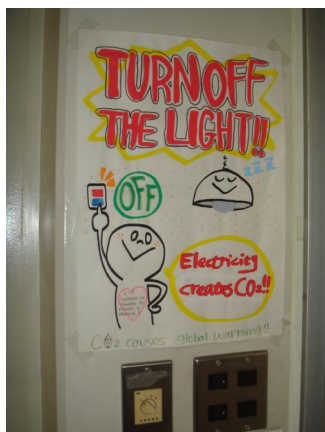
ねらい 3、に対し

地球温暖化の要因と悪影響を把握した上で、校内で取り組むことができる温暖化防止策について4人グループで考え、啓発ポスターを作成する。

ねらい 4、に対し

各グループで考えた防止策について、全校に訴えるメッセージと、その策を実行するメリットまたは実行しない場合のデメリットをクラスで発表し、ポスターを校内の然るべき場所に掲示し地球温暖化防止を訴える。

《校内に掲示した生徒の作品》



UNIT 6 Energy（エネルギー）

①授業のねらい

1. 日本のエネルギー事情と世界のエネルギー需要についての基礎知識を得る。
2. 化石燃料は限りある資源だということを知る。
3. 代替エネルギーについての知識を深める。

②生徒の活動

ねらい 1、2、に対し

資源エネルギー庁室エネルギー情報企画より提供を受けたパンフレット、『日本のエネルギー2008』（英語版）を利用し、グラフやデータを読み取りながら、日本は化石燃料の依存度がまだ高いことや、世界のエネルギー需要が増加している一方で、化石燃料の枯渇が心配されていることなどを学ぶ。

ねらい 3、に対し

Solar(太陽光)・Geothermal(地熱)・Tidal(潮力)・Wind(風力)・Fuel Cells(燃料電池)についての情報を、テキスト付属のアクティビティシーートのリーディングパッセージから読み取り、それぞれのメカニズムとそのメリット・デメリットをまとめる。

UNIT 7 Developing Countries (発展途上国)

①授業のねらい

1. 発展途上国の定義と、途上国が抱える大きな問題点は何かを学ぶ。
2. 途上国が抱える大きな問題点についてその原因と解決の取組みを学ぶ。
3. Critical Thinking(クリティカル・シンキング)の手法を身に付ける。

②生徒の活動

ねらい 1、に対し

独立行政法人国際協力機構 (JICA) より提供を受けた『JICA 国際協力人材実務ハンドブック』(2009 年) を参考に発展途上国の概況を学び、世界の約 3 / 4 の国々が発展途上国 (152ヶ国) であることを知る。併せて、「The World Fact Book」
<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/index.html>
の一人あたり国民総所得リスト (上位順) を参考に、アジア・アフリカ諸国に発展途上国が集中していることに気づかせる。

ねらい 2、に対し

テキスト及び付属のリーディングパッセージを読み、途上国における 5つの問題 Hunger(飢餓)・Disease(疾病)・Illiteracy(非識字率)・Unemployment(失業)・Homelessness(ホームレス)・Debt(国の負債)についてその原因と解決の取組みをまとめる。

ねらい 3、に対し

テキストの 8 章(pp.38-39)をもとに、各 Statement(声明)に対し、Fact(事実)か Opinion(意見)か、True(真実)False(偽り)か、を見極め、Good news か Bad か、また Agree(賛成)か Disagree(反対)か自らの意見を理由とともに英語で表現する練習を行う。

UNIT 8 Human Rights (人権)

①授業のねらい

1. 『世界人権宣言』について学ぶ。
2. 国際的な人権団体 Amnesty International(アムネスティ・インターナショナル)について学ぶ。
3. インターネットを利用したリサーチスキルを深める。

②生徒の活動

ねらい 1、に対し

『世界人権宣言』の成り立ちを学んだ上で、テキストにある全30条（英文、簡略化されたもの）を理解し、各条項が保証している権利を理解する。

ねらい 2、3、に対し

*注4 ハンドアウトを用い、Amnesty International の概要や取組み、日本が指摘されている人権問題などをホームページからリサーチする。

*注4 ハンドアウト 次項を参照

UNIT 9 Tourism (ツーリズム)

①授業のねらい

1. Tourism(観光業)が引き起こす問題点を学ぶ。
2. ツーリストとしての Do's and Don'ts(すべきこと・してはならないこと)を自覚する。
3. Ethical (倫理的な)Tourism の観点から、理想の観光業をデザインする。

②生徒の活動

ねらい 1、2、に対し

ALT 作成のビデオ（あるリゾート地に外国資本が流入し、大型ホテルやファーストフードチェーン店を展開し、地元住民を俗化させてしまう内容）を視聴し、観光開発がもたらす弊害に気づく。

それをもとに、一人の観光客としてすべきこと・してはならないことに気づく。

ねらい 3、に対し

架空のリゾート地とその産業や気候、人口などの概要を提示し、4人グループで観光開発側の立場として Ethical (倫理的な)Tourism の視点に配慮しながら理想のホテルを建設する計画を作成し、発表する。

UNIT 10 Peace and Conflict (紛争と平和)

①授業のねらい

1. 紛争が引き起こす問題について知る。
2. 世界中で紛争解決や平和のために活動してきた Peacemaker について学ぶ。
3. Peacemaker について、調べ学習を行い、さらにリサーチスキルを深める。
4. 調べた内容を英語でまとめる力を養う。

②生徒の活動

ねらい1、に対し

Edward Zwick 監督『ブラッドダイヤモンド Blood Diamond』(2006 アフリカ)を視聴し紛争により児童労働や難民など多くの深刻な問題がもたらされていることを知る。

ねらい2、3 に対し

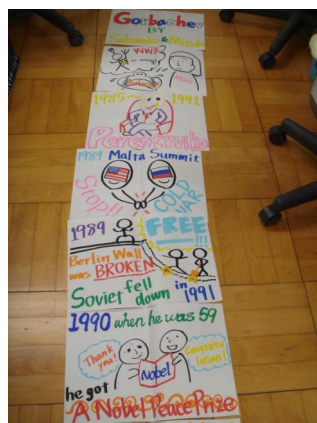
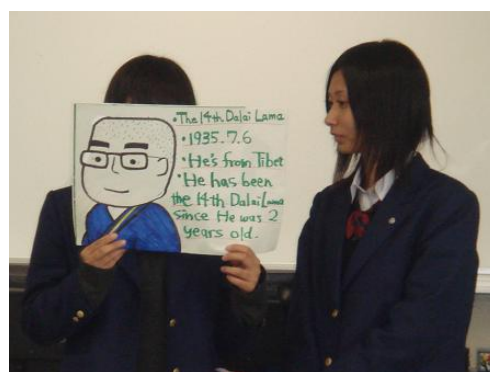
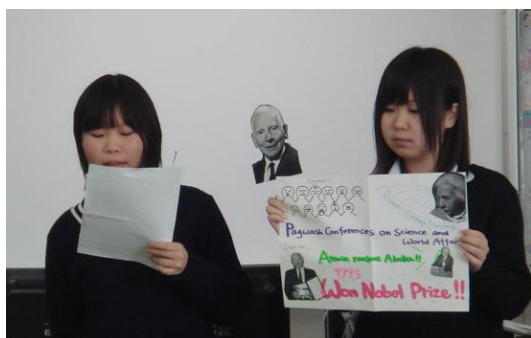
テキストにある過去のノーベル賞受賞者について、ペアで1名を選び、どの地域でどのような問題にどのように対処してきたか、またいつノーベル賞を受賞したかについてインターネットや図書館の書籍を利用して調べる。

ねらい4、に対し

調べた事柄についてまとめ、自分の意見とともにペアで「紙芝居」方式のプレゼンテーションを行う。

また各自で調べた内容を A4 一枚のレポートにまとめる。

《生徒の発表の様子と作品》



UNIT 12 US and Them（日本に住む外国人が抱える問題）

①授業のねらい

1. 身近に住む外国人が抱える問題点や日本で感じる差別意識に気づく。
2. 身近に住む外国人といかに共存していくか考える。
3. 英語で相手の意見に耳を傾け、それに対し支持や反駁する力を養う。

②生徒の活動

ねらい1、3、に対し

テキスト付属の音声教材を聞き、国内に住む外国人が感じている問題、差別意識を理解する。

ねらい2、に対し

それぞれの問題、差別に対しどのように対処していくか、グループで解決策を話し合い発表する。

ねらい3、に対し

テキスト付属の音声教材にある6つの Statement を聞き、それに対して肯定側・否定側に分かれ、ディベートを行う。

（提言の例）

- ・ Foreigners should not be allowed to work in Japan. 「外国人は日本で働くことを許されるべきではない。」
- ・ The Olympic Games encourage nationalism, and should be abolished. 「オリンピックは愛国心を煽るものであり、よって廃止すべきである。」

UNIT 13 Refugees（難民）

①授業のねらい

1. 「難民」とは何か、その定義と何が原因で難民を生み出すのかを知る。
2. 難民生活における問題点について学ぶ。
3. 各国の難民受入の様子や、日本の受入事情について学ぶ。

②生徒の活動

ねらい1、に対し

難民の地位に関する条約(The **1951** Convention relating to the Status of Refugees)を読み、難民はどのような原因でどのような状況におかれた人たちであるか学ぶ。

ねらい2、に対し

Martin Campbell 監督『すべては愛のために Beyond Borders』（2003アメリカ）を視聴し難民キャンプでの生活の様子を測り知る。また、テキストのリーディングパッセージから難民キャンプでの問題点を見いだし、まとめる。

ねらい 3、に対し

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）及び法務局入国管理事務所のホームページから、国際的な難民の動向と、各国の受入状況、日本の受入状況の推移について学ぶ。また、日本はかつて 11,000 人を超えるインドネシア難民を受け入れてきた事実を学ぶ。

UNIT 14 The United Nations（国際連合）

①授業のねらい

1. 国際連合の成り立ちとその役割について学ぶ。
2. 国際連合の関連機関について調べ学習を行い、リサーチスキルを深めるとともに、それぞれの機関の概要を知る。
3. ミレニアム開発目標（MDGs）について概要を学ぶ。

②生徒の活動

ねらい 1、に対し

テキストやハンドアウトをもとに、国際連合の成り立ちやその役割、関連する人物についてリサーチを通じて学ぶ。

ねらい 2、に対し

国際連合の関連機関のうち、テキストにあげられている 6 つの機関(UNICEF・UNESCO・FAO・WHO・UNEP・ILO)について、それぞれの中心となる取組みや組織の概要についてインターネットを通じた調べ学習で学ぶ。

ねらい 3、に対し

国際連合のホームページ、パンフレットをもとにミレニアム開発目標（MDGs）について 8 つの Goal と達成状況を学ぶ。

おわりに

以上、年間を通じた「異文化理解」の授業内容を紹介したが、限られたページ数で十分に伝えることができず残念である。先にも述べた通り、紹介した「異文化理解」は現行の学習指導要領で英語の専門科目に位置づけられている。つまるところ、英語の授業であり、実際に生徒たちは各 UNIT で関連する英単語を学び、英文を読んだり聞いたりしながら知識をインプットし、それを英語でディスカッションしたり発表したり、または作品を製作するということでアウトプットにつなげている。年間100名超の海外からの訪問客を迎える本校では、この「異文化理解」の授業にも頻繁に海外からの留学生、訪問客を招き入れているが、実際にそこでも既習のトピックについて英語で意見を交わしている。このように世界で起こっている出来事について英語で学び、英語で意見を述べることは、彼らの将来の可能性を大いに広げることにつながると考えている。

「開発教育」について、教科担任制である高等学校ではその分野の専門家がいなかったり、科目設定がないことから多くは「総合的な学習の時間」の中で取り組んでいる。本校では、その内容を英語の必修科目に取り入れて実施している。このことの大きなメリットは、担当者が替わっても継続できることにある。幸い、平成25年度より施行される新しい学習指導要領においても「異文化理解」は英語の専門科目として継続され、本県の外国語科設置校では必修科目となる。また新学習指導要領の外国語科の目標が「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」（「高等学校学習指導要領解説・総則編」平成21年7月 文部科学省）であることから、本校における「異文化理解」の取り組みはこの目標を十分に達成していると考えられる。

最後に、この授業を実践するにあたって御協力をいただいたテキストの出版元である金星堂より、この授業で使用してきた『You, Me and the World』がSecond Editionとして改定されるという情報をいただいている。詳しくは同社のホームページに紹介されているのでご参照いただきたい。<http://www.kinsei-do.co.jp/3898/index.html>

また貴重な資料を提供いただいた、財団法人国際協力推進協会（APIC）、独立行政法人国際協力機構（JICA）、資源エネルギー庁、そして授業をともに実践してきた埼玉県立和光国際高等学校外国語科のスタッフに感謝を申し上げ、実践報告を終える。